

平成 20 年 9 月 11 日

関係者各位

大和インベスター・リレーションズ株式会社
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-2-1
Tel 03-5555-4111(代表) Fax 03-5202-2020

第 7 回「社会的責任投資 (S R I) の日本企業への影響」の調査結果

大和証券グループの IR (投資家向け広報) コンサルティング会社である大和インベスター・リレーションズ株式会社 (以下「大和 IR」) (社長: 渡辺秀雄) は、「社会的責任投資 (S R I)」の日本企業への影響について、2008 年 8 月 1 日 ~ 8 月 20 日、日本国内の主要な日系・外資系証券会社調査部門及び機関投資家 300 名 (ファンドマネージャー 59 名、バイサイドアナリスト 94 名、セルサイドアナリスト 67 名、その他 80 名) からアンケートの回答を得ました。

CSR、SRI はさらに浸透

ファンドマネージャー・セルサイドアナリストの「よく知っている」との回答比率が前回 (2007 年 1 月) より増加しており、SRI ファンドの普及が背景と考えられる。一方バイサイドアナリストにはあまり変化がみられない。

環境、社会貢献への関心度がアップ

SRI の項目の中で関心のある分野については、「ガバナンス」「マーケット」が低下する一方で「環境」「社会貢献」が上昇。属性別には、ファンドマネージャーは「マーケット」、セルサイドアナリストは「環境」、バイサイドアナリストは「ガバナンス」を相対的に重視している。

業務への影響度合いは、内容が大きく変化

「業務に影響している」との回答は、ファンドマネージャーで 5 割超、アナリストでは約 4 割で前回とほぼ同じ水準。ただし、具体的な内容として、アナリストでは「株価格付け」(28.6% 42.4%)、ファンドマネージャーでは「ユニバース」(38.5% 59.4%) が急増しており、投資対象を選定する前提条件としての重要性がうかがえる。

SRI インデックスの認知度もアップ

前回に比べて認知度はアップしたが、インデックスの存在を知らないとの回答が依然半数以上を占める。バイサイドアナリストの認知度が相対的に低い。

CSR 報告書の重要性が一段と高まる

SRI における投資の判断基準として、「CSR 報告書」が「取材、インタビュー」を抜いて第 1 位になった。特にセルサイドアナリストが報告書を重視している。機関投資家の約半数が CSR 報告書を重視しているという現状が明らかになった。

企業の社会的責任 (CSR: Corporate Social Responsibility) が注目されています。CSR への取り組みを投資基準にする SRI (Socially Responsible Investment: 社会的責任投資) ファンドは、現在の純資産が約 3,000 億円にのぼっています。

この調査は、2002 年 12 月から実施しており、今回は 7 回目の調査となります (前回は 2007 年 1 月に実施)。

今回の調査概要は以下のとおりです。

- ・SRIの認知度は約 95%、「よく知っている」との回答は、ファンドマネージャー(26.9% 45.8%)、セルサイドアナリスト(25.4% 41.8%)で急増、一方バイサイドアナリスト(22.5% 25.5%)は3ポイント増。
- ・CSRの認知度は約 98%、「よく知っている」との回答は、ファンドマネージャー(26.9% 45.8%)、セルサイドアナリスト(25.4% 43.3%)で急増、一方バイサイドアナリスト(25.0% 23.4%)は若干減少。
- ・SRIの中で関心の高い項目は、法令順守などの「ガバナンス、アカウントビリティ」が第1位だが前回比低下(80.4% 70.7%)。一方、「環境」(58.8% 62.7%)、「社会貢献」(29.1% 32.0%)が上昇。今年には洞爺湖サミットが開催され、企業の環境問題への貢献、環境ビジネスの展開に注目が集まった可能性がある。
- ・SRIの考え方の中で、分かりにくい、なじみにくい項目を聞いたところ、「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」(33.8% 36.0%)がトップとなった。
- ・SRIがおよぼす、レポート作成や投資銘柄選択への影響について、「影響している」(42.5% 41.7%)は0.8ポイント減。具体的な内容としては、アナリストでは株価付け(28.6% 42.4%)、ファンドマネージャーでは、「ユニバース」(38.5% 59.4%)が急増しており、投資対象を選定する前提条件としての重要性がうかがわれる。
- ・依然としてインデックスの存在を知らないという回答が 53.0%を占めるが、前回と比べSRIインデックスの認知度は上昇。「MS-SRI」(27.0%)が「DJSI」(23.0%)を抜いて認知度第1位。属性別では、相対的にはバイサイドアナリストの認知度が低い。
- ・SRIの判断材料として「CSR 報告書」(49.0%)が「取材、インタビュー」(45.3%)を抜いて第1位。「環境報告書」(43.3%)、「インターネットホームページ」(31.3%)と続く。属性別ではセルサイドアナリスト(52.2%)が報告書を重視している。
- ・日本でのSRIについて、普及すると回答は 65.0%と前回比 12.0ポイント減少。属性別では、ファンドマネージャーは前回とほぼ同じだが、相対的にアナリストは普及しないとの回答が増加している。

大和IRは、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループにあって、上場・未上場企業の投資家向け広報(IR)に優れたノウハウを持ち、専門性の高いプロフェッショナルなサービスで実績を築き、コーポレート・ストーリーの構築からIR活動のアドバイザーまで、IRの幅広いサポートを行なっています。

大和IRでは、企業のディスクロージャー活動を今後とも支援してまいります。

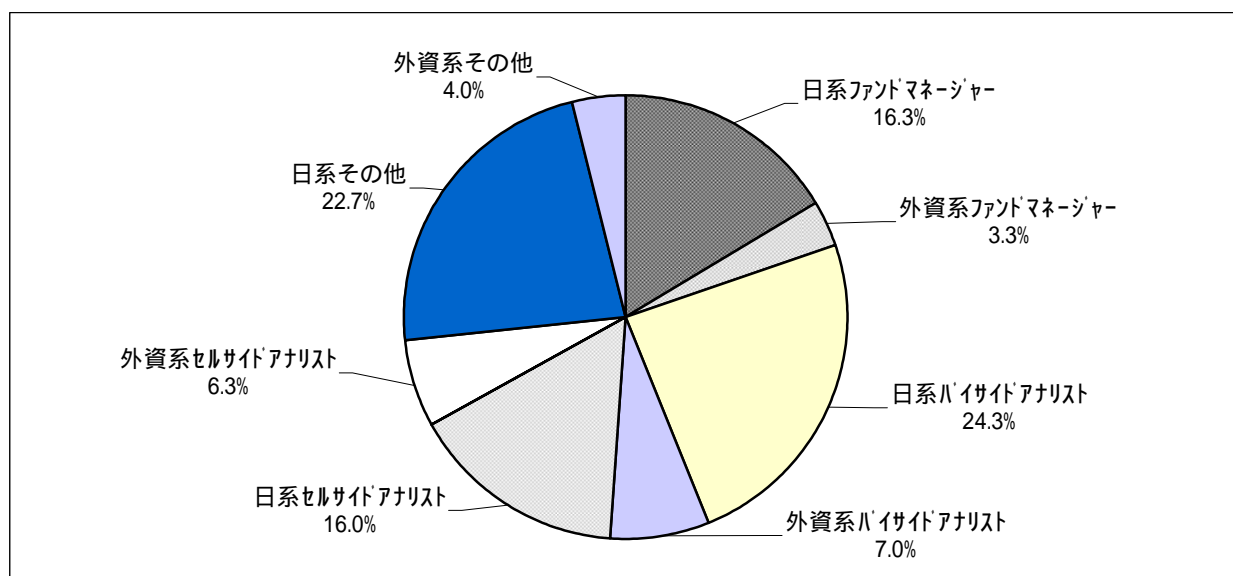
以上

【お問合せ先】 大和インベスター・リレーションズ株式会社
総務・企画部 部長 石橋卓磨
Tel 03-5555-4111 Fax 03-5202-2020

調査期間:2008年8月1日~8月20日

有効回答者数:300名

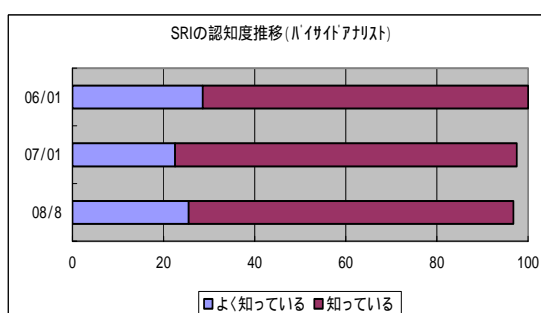
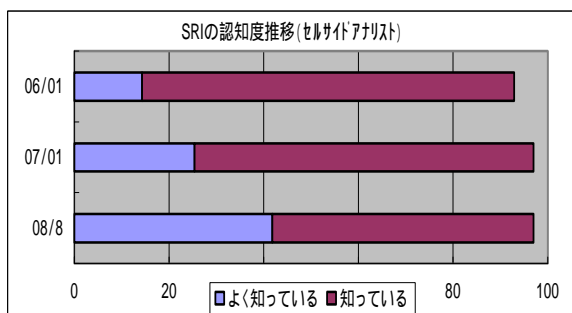
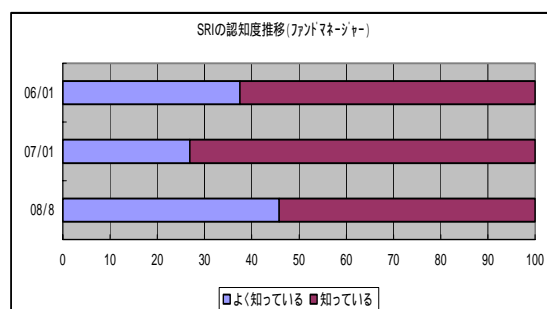
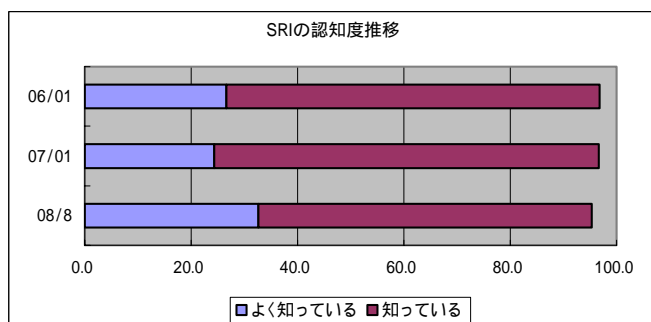
(ファンドマネージャー59名、バイサイドアナリスト94名、セルサイドアナリスト67名、その他80名)



1 社会的責任投資(SRI)の認知度

SRIの認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」、「知っている」を合わせて95.4%と、第6回調査(2007年1月)と比較してほぼ同じ水準だが、「よく知っている」(24.3% 32.7%)が増加しており、SRIファンドの普及が背景と考えられる。

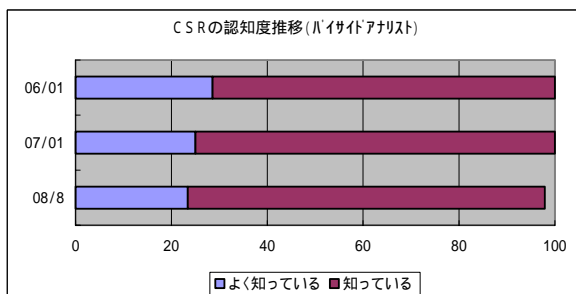
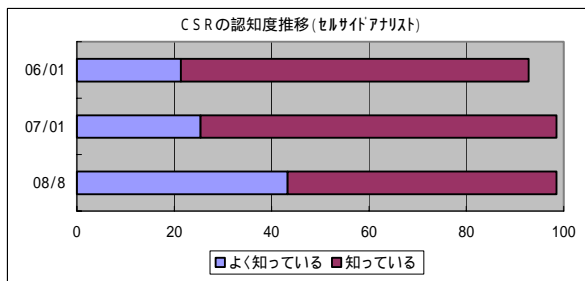
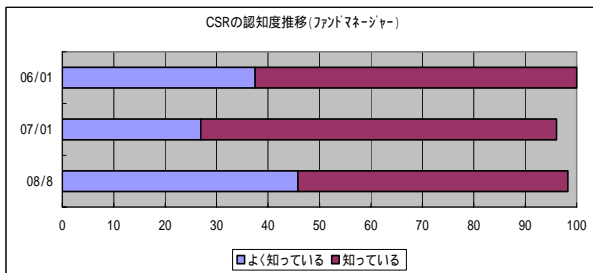
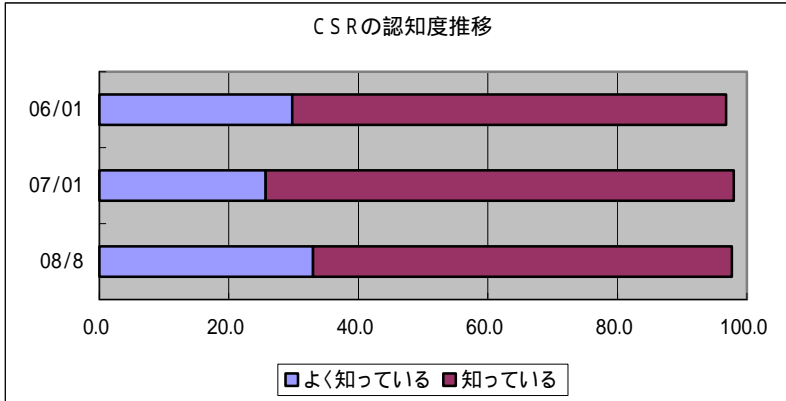
職種別では、「よく知っている」との回答はファンドマネージャー(26.9% 45.8%)とセルサイドアナリスト(25.4% 41.8%)で急増している。一方バイサイドアナリストにはあまり変化がみられない。



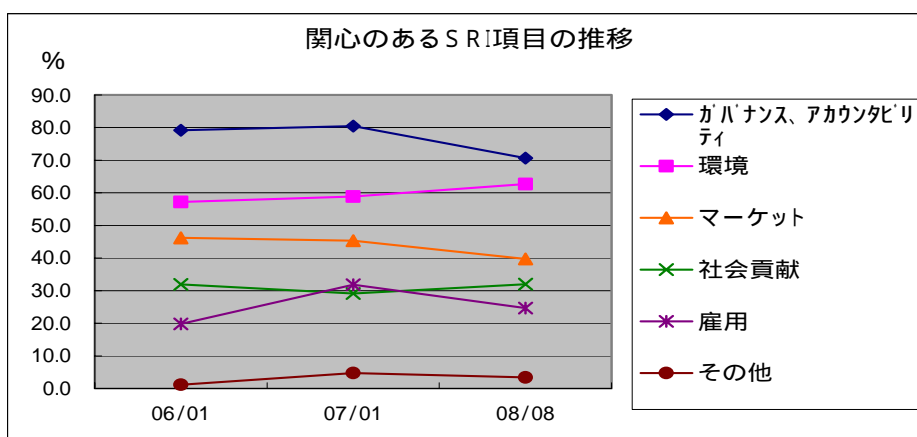
2 企業の社会的責任(CSR)の認知度

CSR の認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」、「知っている」を合わせた認知度 97.7%と前回調査とあまり変化はない。

職種別では、「よく知っている」との回答はファンドマネージャー(26.9% 45.8%)とセルサイドアナリスト(25.4% 43.3%)で急増している。一方バイサイドアナリストにはあまり変化がみられない。



3 関心の高いSRI項目(複数回答)

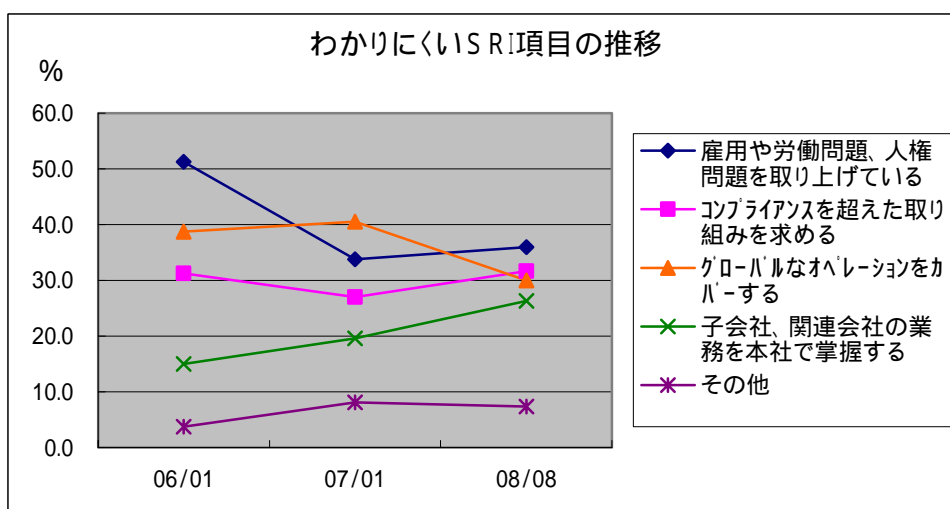


SRIの項目の中で関心のある分野については、法令順守などの「ガバナンス・アカウントビリティ」(1位、80.4% 70.7%)、顧客満足などの「マーケット」(5位、45.3% 39.7%)が低下。こうした項目はすでに「当たり前のこと」という認識が増えた結果と考えられる。

一方で、「環境」(2位、58.8% 62.7%)、「社会貢献」(4位、29.1% 32.0%)が上昇。今年は洞爺湖サミットが開催されるなど環境問題に対する関心が高まったことを背景に、企業の環境問題への貢献、環境ビジネスへの展開に注目している傾向が表れている。

属性別には、ファンドマネージャーは「マーケット」(3位、49.2%)、セルサイドアナリストは「環境」(1位、68.7%)、バイサイドアナリストは「ガバナンス」(1位、73.4%)を相対的に重視している。

4 SRIの考え方で、分かりにくい、なじみにくい項目(複数回答)



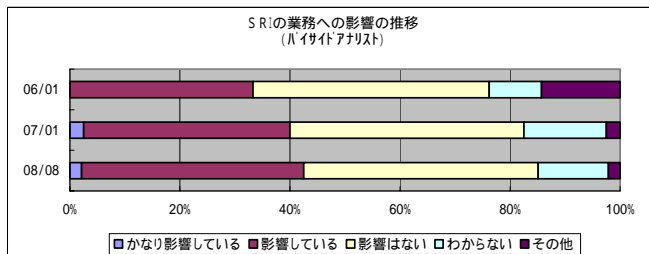
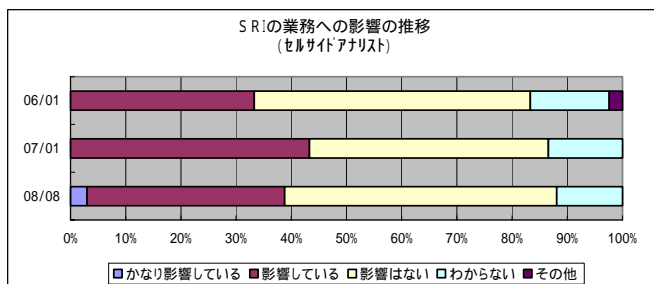
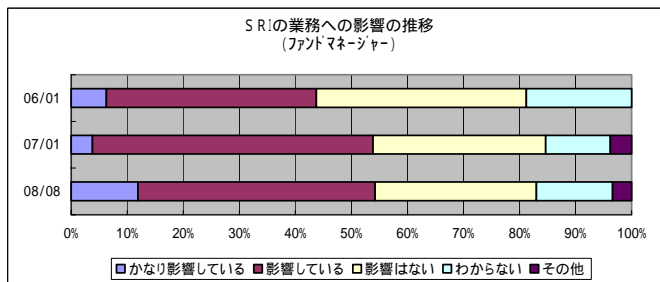
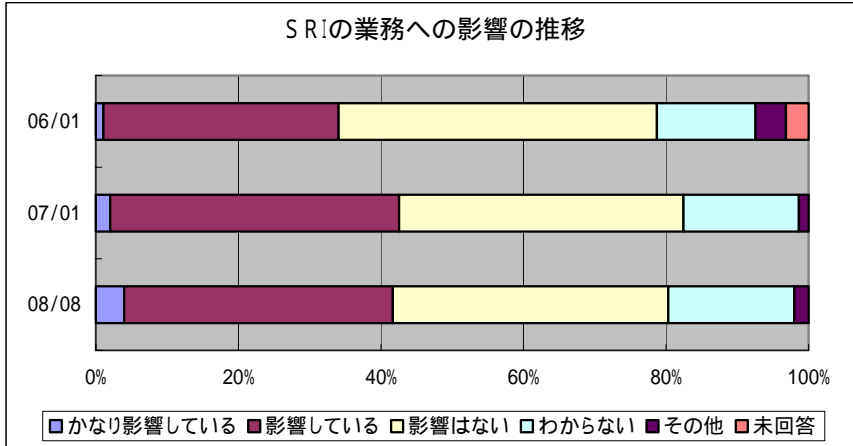
4位ながら「子会社・関連会社の業務を本社で掌握する」(19.6% 26.3%)がわかりにくい項目として注目される。1位は、「雇用や労働問題」(33.8% 36.0%)、2位は「コンプライアンス」(27.0% 31.7%)。「グローバルなオペレーション」(3位、40.5% 30.0%)については、理解が進んだと考えられる。

属性別でも、「子会社、関連会社」が相対的にわかりにくい項目となっている。

5 SRIの考え方が、業務に影響をおよぼしているか

「業務に影響している」との回答は41.7%で前回(42.5%)とほぼ同じ水準。

職種別では、ファンドマネージャーで「かなり影響している」(3.8% 11.9%)が急増しており、投資対象を選定する過程での重要性が増していると考えられる。セルサイドアナリスト、バイサイドアナリストでは大きな変化はみられない。

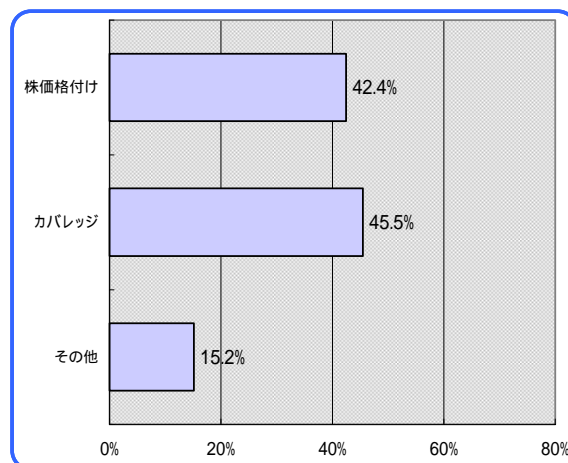


6 5で影響が出ていると回答したアナリスト(66名)が、具体的な影響を回答(複数回答)

「株価格付け」(28.6% 42.4%)が急増しており、銘柄選択の際に重要性を増していることが考えられる。一方、「カバレッジ」(69.0% 45.5%)は急減している。

その他の意見には「SRIの考え方に基づいた企業活動をどの程度行っているかを確認することがスタート」(日系セルサイドアナリスト、食品、農林・水産、電力・ガス)、「顧客の役所がうるさくなった」(日系バイサイドアナリスト、ファンドマネージャー兼任)、「ネガティブスクリーンの要素として」(日系バイサイドアナリスト)とのコメントがあった。

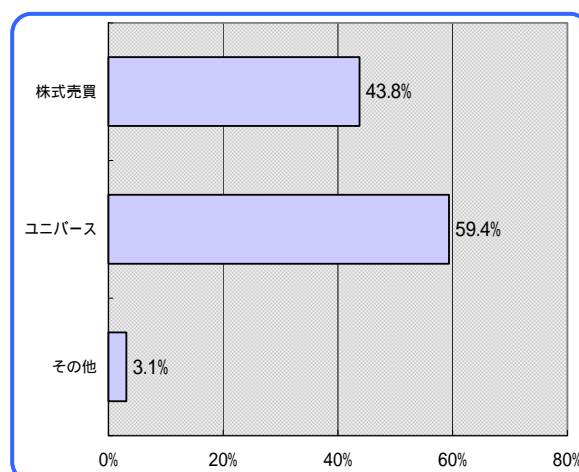
(N = 66)



7 5で影響が出ていると回答したファンドマネージャー(32名)が具体的な影響を回答(複数回答)

「ユニバース」(38.5% 59.4%)と急増しており、投資対象銘柄を絞り込む前提条件としての重要性が高まっていると考えられる。一方、「株式売買」(69.2% 43.8%)は急減している。

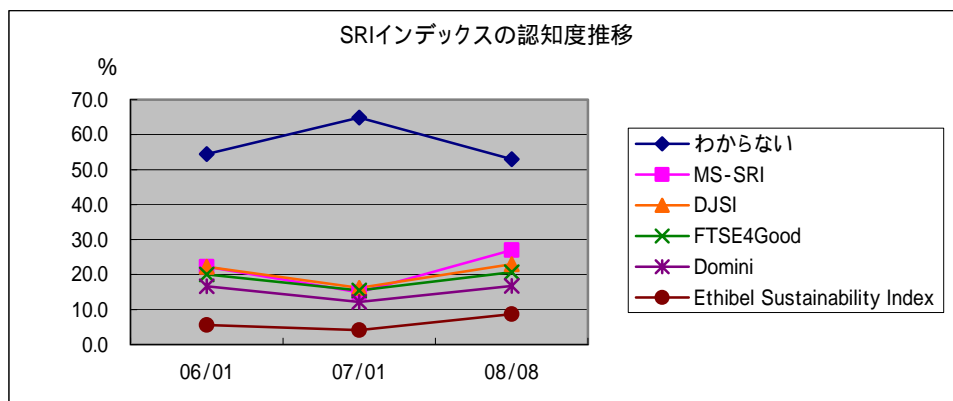
(N = 32)



8 SRIインデックスのうち、どれをご存知ですか(複数回答)

SRIインデックスの認知度も全体的にアップ。個別には「MS-SRI」(14.9% 27.0%)が「DJSI」

(16.2% 23.0%)を抜いてトップ。3位は「FTSE4Good」(15.5% 20.7%)、4位は「Domini」(12.2% 16.7%)、5位は「Ethibel Sustainability Index」(4.1% 8.7%)の順。
 属性別には、ファンドマネージャーが「Ethibel Sustainability Index」(15.3%)、セルサイドアナリストが「MS-SRI」(32.8%)、バイサイドアナリストは「DJSI」(21.3%)について相対的認知度が高い。



9 どのSRIインデックスに注目していますか(複数回答)

全体的には注目度もあがっている。個別では「MS-SRI」(6.8% 12.3%)がトップで唯一2桁台となっている。

属性別には、ファンドマネージャーが「FTSE4Good」(15.3%)、セルサイドアナリストが「DJSI」(14.9%)、バイサイドアナリストは「FTSE4Good」(8.5%)について注目度が高い。

10 インデックスの構成銘柄をご存知ですか

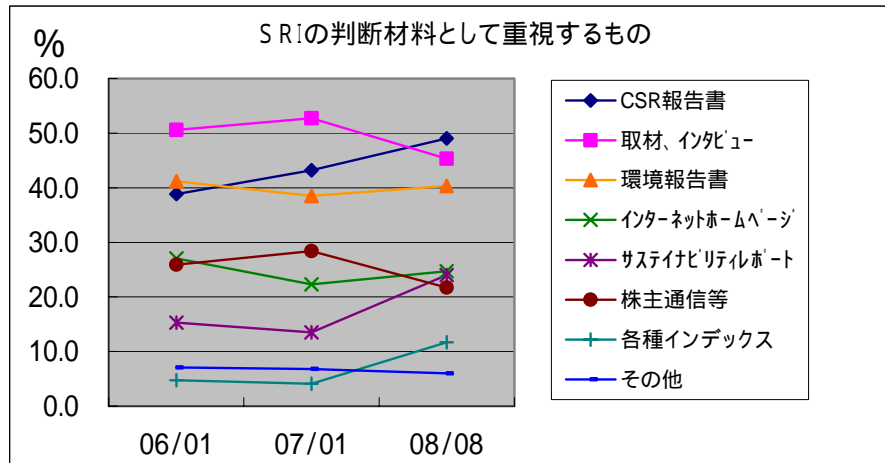
インデックスの構成銘柄の認知度は上昇(18.3% 25.0%)している。

属性別では、ファンドマネージャー(19.2% 33.9%)の認知度が急増しており、そのうち「よく知っている」は前回ゼロから8.5%に増加している。セルサイドアナリスト(19.4% 25.4%)も増加しているが、バイサイドアナリストについては若干減少している。ファンドマネージャーは投資銘柄選択の際にインデックス構成銘柄かどうかに関心をもっていることがわかった。

11 SRIの判断材料として重視するもの(複数回答)

「CSR 報告書」(43.2% 49.0%)が、「取材、インタビュー」(52.7% 45.3%)を抜いて第1位となった。3位「環境報告書」(38.5% 40.3%)、「インターネットホームページ」(22.3% 24.7%)は「サステナビリティレポート」(13.5% 24.0%)、「株主通信等」(28.4% 21.7%)を抜いて4位となった。7位は「各種インデックス」(4.1% 11.7%)の順となっている。

属性別では、セルサイドアナリストが「CSR報告書」(52.2%)、ファンドマネージャーとバイサイドアナリストが「取材、インタビュー」を重視している。

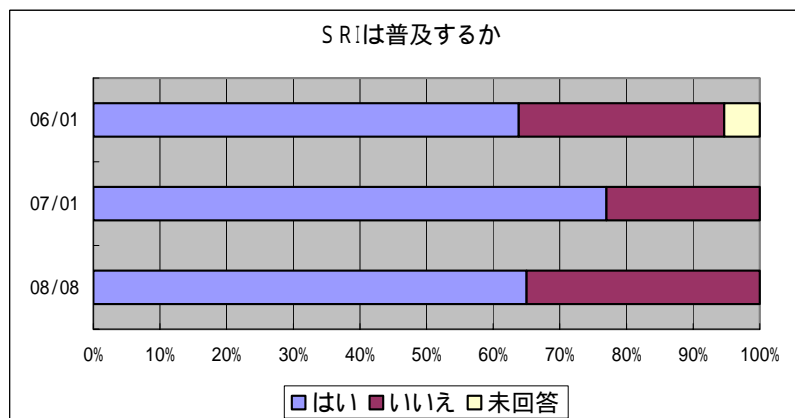


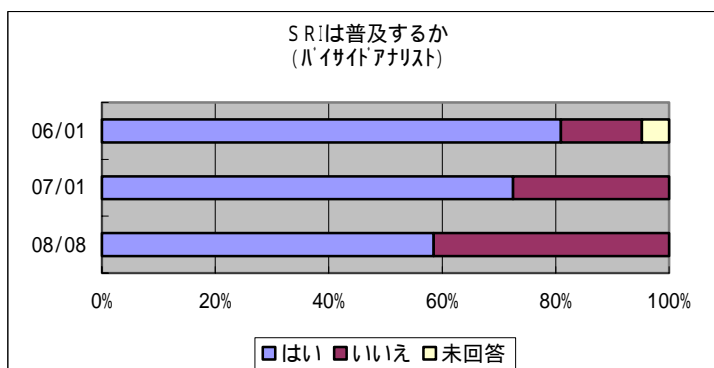
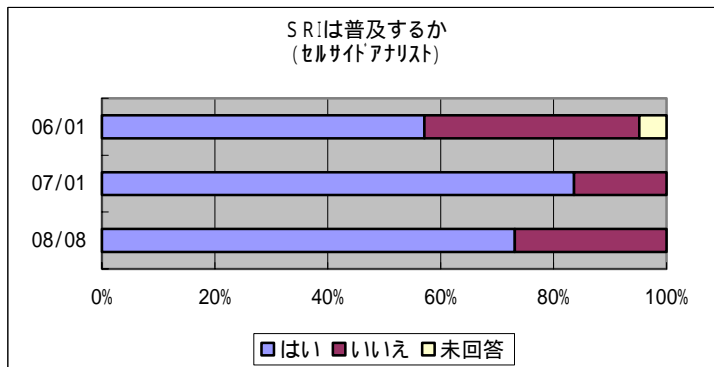
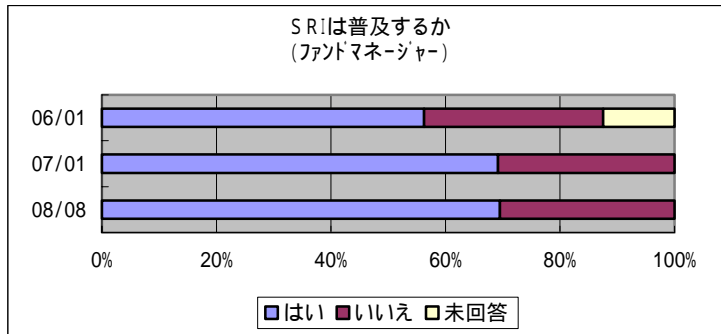
12 今後、日本でSRIは普及すると思いますか

「はい(普及する)」(77.0% 65.0%)と減少している。属性別では、セルサイドアナリストは「普及する」(83.6% 73.1%)、バイサイドアナリスト(72.5% 58.5%)は減少しており、一方ファンドマネージャーは69.5%が普及すると回答しており前回とあまり変化はない。

「はい(普及する)」の中で、「避けては通れない喫緊の課題」(日系その他)、「社会的責任を果たさない会社が徐々に淘汰されるようにはなる」(日系その他)、とのコメントがあった。

「いいえ(普及しない)」との回答には、「パフォーマンスが高いことが証明されない限りは限定的」(日系セルサイドアナリスト)とのコメントがあった。





13 SRIについて疑問に思っている点や、今後、さらにSRIが普及するためには何が必要か(自由意見)
環境面の認識

- ・ 「企業の四半期決算及び、運用会社による4半期報告等が普及するにつれ、短期的なパフォーマンスに注視してしまい、SRIという長期的な運用スタイルにとっては普及の阻害要因になっている可能性がある。」(日系ファンドマネージャー)
- ・ 「各企業におけるSRIの改善などは客観的にわかりにくい。」(日系ファンドマネージャー)
- ・ 「一部の企業は、SRIを表明しつつ、明らかに反SRIの行動をはばかることなくとっている。」(外資系ファンドマネージャー)
- ・ 「経営者の質の向上。最近、全体的に質の劣化がひどすぎる。」(日系セルサイドアナリスト・中小型)

普及への課題

- ・ 「非会計情報をどのように運用者が銘柄選択に落とし込むか。どのようなスキームが適切か。」(日系)

ファンドマネージャー)

- ・ 「実際に CSR が企業価値向上に寄与するのか、さらなる実証分析が必要であるとする。」(日系ファンドマネージャー)
- ・ 「SRIと括って商品化するのであれば、運用成績をある程度期間無視できる体制・社会認知が必要。」(日系ファンドマネージャー)
- ・ 「投資家が CSR スコアリング+アルファ的な運用ができる公正なスコアリング・スタンダードを普及させることが必要だと思います。」(日系ファンドマネージャー)
- ・ 「今後はアナリストとしても直接企業に CSR が見えない企業は投資判断が引き下げられる旨、注意を喚起することが必要となる。」(日系セルサイドアナリスト)
- ・ 「これについてどうしてインデックス化できるのか、その基準や指標化が一般化できるのか、正直疑問を感じます。」(日系セルサイドアナリスト、食品・農林・水産・電力・ガス)
- ・ 「消費者対応、CS、雇用等については今後問題になりやすいのではと思う一方、そうしたものの開示基準がないため、評価基準を安定させること」(外資系セルサイドアナリスト、通信・インターネット)
- ・ 「SRIが経済的付加価値を生み出すという実証の積み上げ」(日系バイサイドアナリスト)
- ・ 「税制優遇、数値化によりBS、PLへの明記、各社のCSRの内容を横断的に網羅したレポート、資料の充実」(日系バイサイドアナリスト、アジア株式)
- ・ 「SRI活動による経済効果測定試算などの共通化」(日系バイサイドアナリスト、化学)
- ・ 「積極的にCSRに取り組む企業の企業価値がCSRによって向上するのか疑問。」(外資系バイサイドアナリスト)
- ・ 「関連情報の開示の義務化。」(日系その他)
- ・ 「公的年金による積極的な投資姿勢」(日系その他)
- ・ 「投信販売等を通じた個人への普及が必要。」(日系その他)